

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道159号 <small>ほくい</small> 羽咋道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局								
起終点	自：石川県羽咋市四柳町 至：石川県宝達志水町二口	延長	6.7km										
事業概要 一般国道159号羽咋道路は、能登地方を縦貫する幹線道路であり、交通渋滞の緩和、交通事故の減少および歩行者自転車通行の安全性の向上などを目的とした延長6.7kmのバイパス事業である。													
H20年度事業化	H13年度都市計画決定 (H一年度変更)	H24年度用地着手	H一年度工事着手										
全体事業費	約145億円	事業進捗率	5%	供用済延長	—km								
計画交通量	9,600～13,300台/日												
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.1	総費用 (残事業)/事業全体	150/159億円	総便益 (残事業)/事業全体	177/177億円	基準年 平成26年						
	(残事業)	1.2	事業費 維持管理費	103/111億円 47/47億円	走行時間短縮便益 走行経費減少便益 交通事故減少便益	155/155億円 21/21億円 1.4/1.4億円							
感度分析の結果 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">[事業全体] 交通量 : B/C=1.01～1.2 (交通量±10%)</td> <td style="width: 50%;">[残事業] 交通量 : B/C=1.1～1.3 (交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費 : B/C=1.1～1.2 (事業費±10%)</td> <td>事業費 : B/C=1.1～1.3 (事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間 : B/C=1.02～1.1 (事業期間±20%)</td> <td>事業期間 : B/C=1.1～1.2 (事業期間±20%)</td> </tr> </table>								[事業全体] 交通量 : B/C=1.01～1.2 (交通量±10%)	[残事業] 交通量 : B/C=1.1～1.3 (交通量±10%)	事業費 : B/C=1.1～1.2 (事業費±10%)	事業費 : B/C=1.1～1.3 (事業費±10%)	事業期間 : B/C=1.02～1.1 (事業期間±20%)	事業期間 : B/C=1.1～1.2 (事業期間±20%)
[事業全体] 交通量 : B/C=1.01～1.2 (交通量±10%)	[残事業] 交通量 : B/C=1.1～1.3 (交通量±10%)												
事業費 : B/C=1.1～1.2 (事業費±10%)	事業費 : B/C=1.1～1.3 (事業費±10%)												
事業期間 : B/C=1.02～1.1 (事業期間±20%)	事業期間 : B/C=1.1～1.2 (事業期間±20%)												
事業の効果等 定性的な効果 <ol style="list-style-type: none"> ①現道交通の転換及び線形不良箇所の回避による安全性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・現道の大型車等の通過交通が羽咋道路に転換することで、歩行者の安全性が確保され、線形不良箇所の回避により安全性の向上が期待される。 ②日常生活圏へのアクセス向上 <ul style="list-style-type: none"> ・通勤及び第三次救急医療機関などへの所要時間が短縮され、地域間連携の向上が期待できる。 ③緊急輸送道路ネットワーク機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・土石流危険区域を回避するとともに緊急時の代替路を形成。 ④地域連携プロジェクト（石川県長期構想）の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・石川県の長期構想「ダブルラダー結いの道」整備構想の実現に大きく貢献。 													
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 羽咋市など3市3町で構成される国道159号建設促進期成同盟会などより整備の要望を受けている。 知事の意見： 中能登地域の幹線道路網を形成するとともに、安全で円滑な交通の確保や災害時の緊急輸送道路として重要な道路である。 羽咋道路は既に部分開通している国道415号羽咋バイパスと相まって広域交流の拡大や地域の安全・安全確保を図るうえでも早期整備が必要である。 引き続き事業を継続するとともに、コスト縮減に努めつつ着実に整備を進め、早期完成を図っていただきたい。													
事業評価監視委員会の意見 対応方針については、北陸地方整備局原案を妥当と判断するが、以下に留意されたい。 ・暫定開通した後、開通効果を確認した上で次のステップを検討すること。													
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 「のと里山海道（旧能登有料道路）」の無料化（H25.3.31）に伴い周辺地域の交通状況が変化。													
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成20年度に事業化、用地進捗率20%、事業進捗率5%（平成26年3月末時点）													

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

工事着手に向け引き続き用地取得を進め、早期暫定2車線開通を目指し事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

周辺地域の交通状況の変化に伴い、道路構造規格（車道幅員、交差点計上等の縮小）見直しを実施している。また、引き続き新技術の活用等によりコスト縮減に努めていく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

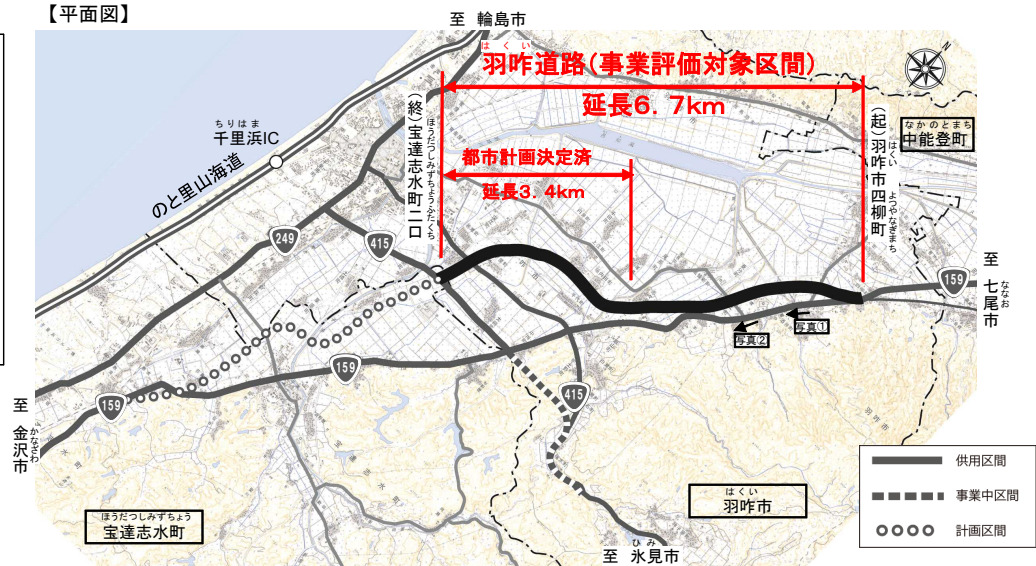
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【広域位置図】



【平面図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。